

学生の漢文授業に対する意識について

人文社会科学系国語教育講座・太田亨

1、授業の概観

本授業は四年次に行う授業である。漢文の授業をどのようにすればよいか、深い読解とそれを教授する方法を理解することが目的である。そのため作品研究と教授の要点を教授することが中心である。

学生は次年度より教壇に立つことになる。とはいえ、教員採用試験を控えた時期である。そこで、授業の題材で扱ったのは、中・高等学校の漢文の授業で用いる故事成語、論語である。それらの作品の真意をいかに読みとり、他者へ伝えていくか、考察・探究した。

授業は moodle（非同期型）と Zoom（同期型）を併用するハイブリッド型で行った。Moodle 上では教材資料・参考資料・課題・授業動画をアップし、受講生には資料読解・課題提出・動画視聴を課した。

授業スケジュールは下記のようになる。

- 第1回：ガイダンス・『論語』指導案作成
- 第2回：Zoom で指導案について議論
- 第3回：『論語』授業の動画視聴・授業記録
- 第4回：Zoom で授業について議論
- 第5回：『論語』指導案作成2
- 第6回：『論語』授業報告書読解
- 第7回：Zoom で授業について議論2
- 第8回：故事成語指導案作成
- 第9回：故事成語授業の動画視聴・授業記録
- 第10回：Zoom で授業について議論3
- 第11回：Zoom で故事成語の教材研究解説
- 第12回：故事成語の学習指導課題
- 第13回：漢文の学習指導課題
- 第14回：漢文の学習指導まとめ
- 第15回：漢文の学習指導まとめ2

取り上げた教材作品については、『論語』では「己の欲せざるところは人に施すこと勿かれ」「爾に知を誨へんか」、故事成語では「朝三暮四」である。まずは受講生が指導案を作成し、それらの指導案を元に Zoom で議論をする。そして実際の授業動画を視聴し、今度はそれを元に Zoom で授業について議論を行った。最後には、論語と故事成語の授業作りを通じて、漢文の学習指導についてまとめを行った。

2、学生アンケート及び結果

授業後、アンケートを行った。これから、アンケートの質問事項とその結果を示す。

まずは授業の概要について、7項目のアンケートを行った。以下、その項目と結果である。回答者は4名である。②～④について、アンケート用紙には、マイナス要素を含む選択肢も当然あるが、0名の場合は省略した。

①、シラバスの説明（授業の概要）はありましたか。（あった：4名 なかった：0名）

②、moodle に上げる配付資料・課題は適切でしたか。（大変適切だった：2名 まあまあ適切だった：2名 ふつう：0名）

③、Zoom 授業における教員の態度（熱意や言動や学生に対する対応等）は適切でしたか。（大変適切だった：2名 まあまあ適切だった：2名 ふつう：0名）

④、授業動画を興味を持ってみる事が出来ましたか。（かなりできた：1名 まあまあできた：3名 ふつう：0名）

⑤、本授業を通じて、『論語』の授業（教材研究・指導案を含む）についてあなたが考えたことを述べなさい。

・孔子を儒教の先生としてとらえると作品を誤解しやすいことが分かった。文章の背景を正確に読み取り、孔子の言葉が弟子の特性に合わせて述べていることをしっかり読み取ることが大事だと思った。

・孔子は子貢にとって、子路にとって何が大事かを述べており、それは子貢や子路にとって何が足りないかを指摘することになり、それを教員側がしっかり読み取っていなければ授業が成立しないと思った。

・もし授業をするのであれば、孔子がなぜ言ったのかを考えさせることで、『論語』の面白さが伝わるのでは無いかと思った。短い文章でも考えさせることができることがわかった。

・短い文章をどのように授業するか分からなかったが、どのように行えば良いかイメージが湧いた。グループで話し合うのも大事であるが、じっくり個人で考える授業も良いなと思った。授業動画を

見るのは面白い。

⑥、本授業を通じて、故事成語の授業（教材研究・指導案を含む）についてあなたが考えたことを述べなさい。

・故事成語の教材はその元となる本の例えの箇所が取り上げられているため、例えだけで無く、その元となる本の内容にも気付かせる工夫が大事だと思った。実際に故事成語をどのような場面で使うか考えさせるのが良いと思った。

・朝三暮四を実際にどのような場面で使うか考えさせると、現代でも様々な場面が当てはまると思った。教員がしっかり作品を読んで、背景を理解していなければ、生徒を教えることは出来ないと思った。

・思想書の背景には、作者が遊説家であることから当時の社会が深く関わっていることが分かった。また当時の社会と現代の社会に通じることも多く、故事成語の背景を現代で考えさせるのは面白いと思った。

・小学校と中学校で扱われている教材を高校でどのように教えるか分からなかったが、教材を深く予習しておくことで、授業を作ることが可能であると思った。だいぶイメージが出来た。

⑦、本授業について、あなたの意見・感想を自由に書いてください。

・他の人がどのような指導案を作っているのかが見ることが出来、非常に参考になった。また自分が授業を行うに当たっては、しっかり教材研究を行うことが大事だと思った。

・正直なところ、漢文の授業をどのように行うか全く考えていなかったが、この授業を受けてどのようにすれば良いか少し分かったような気がする。

・これまで学んでいなかった授業作りだった。色々な授業があることが分かって良かったが、自分がどのように行うのが良いか迷っている。自分は教材を深く読み取ることが出来ないと思う。これから出来るように取り組んでいきたい。

・漢文を普段から読み込む癖が無いので、これから残りの学生生活で取り組んでいきたい。漢文は好きなのだが、授業をするのは大変だと思った。

3 まとめ

①～④の結果を見ると、教員の対応や授業の進行については、それほど不満はなかったと思われる。

⑤の回答を見ると、本授業で解説した『論語』授業が、学生がこれまで受けてきた『論語』授業と大きく異なっていたことが分かる。国語の中では漢文がどうしても馴染みが薄い。特に『論語』は道德書として受け取られており、敬して遠ざけられる存在である。この授業を機に、まずは論語を読破してもらいたい。

⑥の回答を見ると、故事成語の意味は知っているものの、その背景まで知っている学生が少ないことが分かる。これまでその背景を学んでいなかったことが原因である。どこまで教えるかを考える前の教材研究が大事であると気付いてくれたようである。

漢文の授業を考えるきっかけにはなったようであるが、実際に自分自身で教材研究を行い、指導案を作り、授業を行うのは不安なようである。こればかりは実際に現場に出てから学ぶことも多くあるであろう。

授業形態のことでもっと不満が出るかと思われたが、遠隔授業でもそれほどの不満は見られなかった。授業動画も聞き取りにくいところは何度も聞き直すことが出来るのが良いとのことであった。ただ、議論と言いながらも、教員が一方的に話すことが屢々あったので、工夫が必要だと考えている。来年以降の課題としたい。